

# 明石岩雄先生年譜・著作目録

## 略年譜

- 一九四七年二月 大阪府に生まれる
- 一九六五年三月 大阪府立旭高等学校卒業
- 一九六五年四月 大阪外国語大学入学
- 一九六五年九月 大阪外国語大学中退
- 一九六六年四月 京都大学文学部入学
- 一九七〇年三月 京都大学文学部史学科卒業
- 一九七〇年四月 京都大学大学院文学研究科修士課程入学
- 一九七三年三月 京都大学大学院文学研究科修士課程修了
- 一九七三年四月 京都大学大学院文学研究科博士課程入学
- 一九七七年九月 京都大学人文科学研究所研究班「日中戦争期の政治と社会」(古屋哲夫教授主宰)に班員として参加
- 一九七九年二月まで 京都大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学
- 一九七九年三月 京都大学文学研究科研修員
- 一九七九年四月 奈良大学文学部講師
- 一九八〇年四月 原敬文書研究会(代表原奎一郎、研修班代表山本四郎)の一員として、朝日学術奨励金を授与される
- 一九八一年七月 福井県敦賀市史監修者・事務取扱(通史編下巻編集担当)、一九八九年一二月まで 奈良大学文学部助教
- 一九八四年四月 奈良大学在外研修制度により江西大学(中国江西省南昌市、現南昌大学)において研究学者として研

修に従事、一九九三年三月まで

奈良大学文学部教授

一九九五年四月  
一九九七年八月

「日中関係史大連学術検討会」に、  
報告者および分科会議長として参

加

二〇〇七年七月

奈良大学文学部退職

二〇〇八年三月

奈良大学名誉教授

文学博士（京都大学）

## 著書

『日中戦争についての歴史的考察』

思文閣出版、二〇〇七年三月

## 共著

『敦賀市史 通史編 下巻』敦賀市、一九八八年三月

『敦賀の歴史』敦賀市、一九八九年二月

『以史為鑒 開創未来』大連出版社、二〇〇〇年一〇月

松尾正人編『幕末維新論集 6 維新政権の成立』

吉川弘文館、二〇〇一年四月

## 論文

『第一次世界大戦後の中国問題と日本帝国主義』

『日本史研究』一五〇・一五一号、一九七五年三月

『原爆三十年—広島県の戦後史—』

『日本史研究』一八二号、一九七七年一〇月

『新四国借款団に関する一考察—ワシントン会議にいたる

列強と中国民族運動の対抗—』

『日本史研究』二〇三号、一九七九年七月

『「国璽」に関する新史料』

『奈良大学紀要』一二号、一九八三年二月

『石井・ランシング協定の前提』

『奈良史学』四号、一九八六年二月

『日中戦争論ノート』

『奈良史学』九号、一九九一年二月

『日本軍の中国中南部侵略—呂集団について—』

『奈良史学』一二号、一九九四年二月

「五四運動と南潯鉄道」

## 目録・翻訳

朝尾直弘教授退官記念会編「日本国家の史的特質

近世・近代」思文閣出版、一九九五年四月

「日本外務省文書目録 明治大正の部」

「日中戦争研究の一視角―中国資本主義との関連―」

京都大学人文科学研究所、古屋哲夫研究室、一九七

「新しい歴史学のために」二二二号、一九九六年三

九年九月

月

(翻訳 原題 Checklist of Archives in the Japanese

「一九二〇年代日中関係における「大蔵外交」の展開―駐

Ministry of Foreign Affairs Tokyo, Japan, 1868-

華大蔵財務官公森太郎の記録から―」

1945, Library of Congress of U.S.A.) (pp. 1868-

「奈良史学」一四号、一九九六年一二月

1926の部分)

「全国紙地方版の見出目録のデータベースに関する一考察

「敦賀関係新聞記事目録 福井新聞・大阪朝日新聞北陸版・

―近代地域史研究における有効性と課題―」

敦賀新聞」

「奈良大学総合研究所報」八号、二〇〇〇年一二

敦賀市史編纂委員会、一九八九年三月

月

「大浦家文書目録(近代の部)」

一九九四年一〇月

## 史料紹介

「奈良市雑司町区有文書(近代の部)」

一九九四年一〇月

「史料紹介 江西通志稿」

「奈良史学」二二二号、二〇〇四年一二月